



マイ・カー・デコレーション 花に魅せられて

子どものころから花好きの私は、そこから中を花いっぱいになりたい、いつでも花をと、欲張りな夢を見続け、折々を花とともに暮らす日々もありました。



今は狭いところをトレリスを使って立体的にしたり、物置の屋根にはキャロライナジャスミンなどの薫物を置かせたりと工夫しながら楽しんでます。



鴻巣の早川昱子さん(58歳)

たくさんのお花の中で心ひかれているのが、姫ひおうぎと白の秋明菊。それと、生垣にからませたバラです。サーモンピンクの淡い色合いと、ふんわりした優雅な花姿には、毎年うっとり感動させられています。

花は心に暖かさ、時には涼風を運んでくれるステキなものだと思います。私にとって花はなくてはならない生涯の友、魅力的です。ますますお付き合いが深まりそうです。

お外が大スキ!

わが家の僚介は2歳9か月になります。毎日元気がいっぱい過ごしています。お外で遊ぶことが大好きで、冷たい風の吹く日も、ボールを追いかけたり、三輪車に乗って走り回っています。また、ほうきとちりとりを持って、庭の掃除のお手伝い?もしてくれます。先日、雪の積もった日も大喜びで、雪の冷たさもなんのその、夢中になって庭を駆け回り遊んでいました。

そんな僚介は、主人の両親、私の両親、そして祖父母と大勢のおじいちゃん、おばあちゃんにかわいがられて、みんなのアイドルとして今日も明るい笑顔を振りまいています。

これからもものびのびと、ますます元気に育ててほしいと思っています。

緑町 酒井沙枝さん 26歳



KOGA 万華鏡

ころがありまして。そういえば、20年ほど前に総和町で、こんな話を聞いたことがあります。明治40年代に生まれた方が、ご自身の母親から聞いた話として「浅草の浅草寺が火事になったとき、山川(結城市)のお不動さんがタニシを着て火消しに行ったんだって。」と。東京浅草の浅草寺は、創建後なん度も火災にあっていますが、まさか不動明王がタニシ



四季風俗図

が古河地方にも伝えられています。だいはろつぼろおまえの家が焼けるから はやく行って水かけろ

カタツムリのことで、タニシと仲間どうしの貝。火事だからといって、カタツムリに早く行けというのは酷い話。しかしその一方でこの頃は、カタツムリに火消しの能力があることを物語っているようでもあります。魚屋の店先でアサリが潮吹いているのを見ると、なぜかこのわらべ唄を思い出すのです。

古河歴史博物館学芸員 立石尚之

だいはろつぼろ はやく行って水かける

～貝たちの防火運動～

初午は2月最初の午の日、2月の風物詩です。節分の豆と鮭の頭、そこへ大根と人参をおろし、酒粕入れて煮込むスミツカレ。もともとはお稲荷さんへの初午のお供えでした。暦をみてみると今年は2月2日がこれにあたります。

ところで、初午は火早いので火を使つてはいけ

ないという言い伝えがあり

ます。東北地

方では、防火

のまじないとして、この日、

タニシを屋根

のつべんに

投げあげると

ころがありまして。そういえば、20

年ほど前に総和町で、こんな話を聞

いたことがあります。明治40年代に